

ブーゲンハーゲン

*Bugenhagen というタイトルは？ ルターの協力者で、宗教改革を推進した人物から名付けました。

「ソーシャルワークは見つけること。 こちらが先に作り出すものではなく…」

福山和女先生インタビュー

☆インタビュー前段話☆

実は、図書館事務室には数年来、映画『スター・ウォーズ』の登場人物ヨーダが、赤い本を手にしたポスターが飾ってある。

アメリカ図書館協会(ALA)の読書推進運動のポスターであるが、これはヨーダファンの某図書館員が、「図書館にフォースの守りがあらんことを」と願い貼ったものであった。

ところが筆者はある日、「ヨーダのモデルは福山先生のお父様！？」という噂を聞きつけた。何という偶然！これもフォースの導きか！？噂の真相はいかに？

かくしてルーテルのマスターヨーダ・カズメのライフストーリーを紐解くインタビューが始まったのであった！

——ヨーダのモデルはお父様の依田義賢氏(脚本家)と云われていますが、

ルーテルの

MASTER YODA
KAZUME

(インターネットでお父様の画像を見て、ヨーダと似てるわね。そっくり(笑)。父は日本映画の礎を築いた溝口健二監督のほとんどの脚本を手がけ、海外でも有名でした。カリフォルニア大学の特別講師をした時に、まだ若い監督(ジョージ・ルーカス)が聴講に来ていたのよ。たまたま私が留学していた時期でした。

——有名なお父様を意識していたことはありましたか？

旧姓の「依田」の名字は関西では少なく、自然と認知されました。いい子にしたら「さすが」と言われ、(抵抗して)良くない点数を取ると「(お父さんが)かわいそう」と言われた。どれも「父の娘」としての言葉でした。私は目立たないようにし、自分から意見を言うことはありません。自分の言ったことは、相手が「私」が言ったととってくれているか確かめていました。「私」の存在はなかったです。



Seek, and The
Force is with you !

——同志社大学へ進学され、いち早く日本にアメリカのソーシャルワークを紹介したドロシー・デッソー先生から直接学ばれましたが、なぜ社会福祉へ進まれたのですか？

中学までは、ピアノや長唄の道に進むことも考えました。また、高校生の時の夢は、アラビアに行って仕事をする事。日本と離れたところに行って、自分の値打ちを認めてもらいたいという願望がありました。

ところが、高校生の時に書いたエッセイを父が見て書いてくれた言葉が「刹那」だった(注：一般的な意味と違い、ここでは「自然の原理に従うこと」をお父様は意味しています)。私は私のままで良い。父は私の抵抗をわかっていたのかもしれないです。そして父が「福祉もいいんじゃないか」と言ったの。

同志社大学を受験し、面接でも父の話が出ました。けれどデッソー先生は父を知っていたにもかかわらず、私を下の名前で呼んでくれました。それがとても嬉しかった。デッソー先生は「私」を褒め、ダメならダメと叱ってくれました。そこから変わりました。今思えば「家族」と関係性があったのも「刹那」だったと思います。

デッソー先生から、人の尊厳、一人ひとりの価値があることを教えられました。デッソー先生は良し悪しではなく、意見を意見として聞いてくれました。



私は親へは抵抗せず黙って様子をうかがっている子どもで、実は緘黙^{かんもく}だったの。調べたけれど原因は分らず。5歳のある日、父が探し物をしていて、初めて声が出ました。「あそこにあるよ」と。

裏面へ続きます！

福山先生インタビューつづき

家には父の本が何万冊もあり、掃除は私の役割でした。本の場所を動かしたら父から怒られます。本を探し出すのは私だったので、私はどの本がどこにあるか映像で覚ええました。

デッソー先生は、よく物を置き忘れることがありました。そんな時、私がデッソー先生の行動を考えて探し物を見つけるので、デッソー先生は私を「**見つける人**」と信頼をおいてくださったの。

——ルーテルとの出会いは？長く勤務されていますが、本学の何に魅力を感じましたか？

東京へ来て「父の娘」と見られず、気持ちが本当に楽になりました。ルーテルでも私を認めてくださって、自由でいられたことが魅力でしょうか。

——授業では体験的な方法を意識して取り入れられていますか？

小さい頃から目立たないようにしてきたので私は自分から何かを言う方ではありません。全て「受け手」でした。「受け手」に回ることでも力を発揮してきました。

けれどデッソー先生の探し物のように、探し出して見つけて、そこから生み出すのが面白いと感じます。無いものも「あるはず」と信じて見つける。ソーシャルワークも同じで、「受け手」にまわって**一緒に見つけて生み出すこと**です。こちらが先に作り出すものではないのです。

授業でも体験的な方法で**体に「刹那」を感じさせます**。私はよく2人以上で話し合わせます。知識を与えても忘れるものです。言葉には表現できない重みを臍に落とすのです。臍に落ちていれば10年後でも思い出せます。卒業生からも私の授業の効果は「ものすごく後に出る」と言われました(笑)。資格を取れなくてもそれも刹那です。10年後ルーテルの社会福祉を学んだ自分を尊重できるようになってもらえたらと思い、日々学生と向き合っています。



☆インタビューを終えて☆

福山先生のお話は、「自分」を見つけられなかった少女が他者の探し物を見つけるうち、探し物(ソーシャルワーク)の達人になり、それが他ならぬ「自分」だと発見した、深く胸に迫るストーリーでした。

図書館の仕事も、いわば利用する人の大事な探し物を見つけるお手伝いをする。私も図書館を利用するお一人おひとりと関わりながら、一緒に探し見つけ出すことを喜びとしていきたいと思いました。(取材:松澤)

図書館からのお知らせ

図書館前の風景に変化が…!



図書館前のケヤキの伐採作業が行われ、倒木の心配がなくなりました。残された切り株から大木だった名残を感じることができません。今まで図書館を見守ってくれていたケヤキに感謝しつつ、伐採作業で出た木材を活用して何か作ることができないか計画中です。

2014
春

図書館で「ちょっと」
新しいことが始まります。

その1

2014 年度 4 月から利用ルールをちょっと変更し、**新館 1 階が「会話OK」のスペースになります。**それに伴い新館 2 階の院生自習室に学部生も利用可能な席を設け、静かな学習スペースを用意します。

その2

図書館をより良くする学生目線のアイデアを職員と一緒に考えてくれる、**図書館サポーターを募集中です。**活動は2014年度新学期からスタートです! 詳しくは学内掲示のポスターをご覧ください♪

編集後記:

今回は松澤さんが、ずいぶん前から練っていた企画、福山先生インタビュー!!です。先生の写真は図書館にあるヨダのポスターと同じ赤い本を抱えたポーズなんです♪お忙しい中、たくさんの興味深いお話を聞かせてくださった福山先生、本当に有難うございました!! (大栗)